

# Preface

## 課題研究とは何か? ～その意味と意義～

本書は課題研究を遂行するためのステップおよび、その中で用いる主な手法を1冊にまとめたものである。読者は自然科学や社会的な課題をテーマに研究を行う高校生以上を想定している。

なぜ課題研究を行うのか? このような問いに、少し大げさな答えをするならば、それが人類のこれまでの歩みにほかならないからである。目の前にある未知の現象や概念は好奇心を駆り立て、それを人類の手で理解しようと学術が発展し、社会において不利益と考えられた課題に対しては、知恵を出し合い、解決へ向けて歩んできた。それが功を奏した場合もあれば、思わぬ方向に進んでしまった場合もある。ともあれ、一つひとつの行為が積み重なり、今の世の中がある。人類にとって幸いなのは、その歩みの多くが記録され、今の世の中に役立てることができる点である。どのような状況把握のもと、課題に対する問いが設定され、それに対してどのようなことが行われ、何が明らかになり、何がわからずじまいなのか? うまくいった場合もあれば、そうでない場合もある。では、その理由は何か? 先人たちが人生をかけて築いた歩みを知り、新たな疑問や課題に取り組むために利用することができる。そして、その行為自体も次の世代へと受け継がれ、新しい時代を作っていく。

近年、交通網の発展に加え、情報インフラおよび端末の普及により、ヒト・モノ・カネ、そして情報のボーダレス化が進み、世の中の流れは加速している。地球の裏側で起こった事態があつという間に広まり、影響を及ぼす。一年先の未来でさえ、どのような状況になっているか予測することは難しい。しかし、このような刻々と変化する状況の中にも変わらないものがある。それは、先ほど述べた歩みのプロセスの中で生み出された、疑問や課題に対する考え方である。詳しくは本文に譲るが、可能な限り、現状・原因に対する理解を深め、その中で問いを設定し、仮説を立て、調査・実験によって明らかにする。そして、その内容を他者と共有する。非常に早い流れの中にある現在こそ、この一つひとつをあせらず、ていねいに行うことが必要とされる。例えば、社会的な課題に取り組む際、まず考えるべきは解決策などではなく、現状・原因の正しい把握である。医者の仕事になぞらえると、診察をおろそかにし、正しく現状・原因を把握せずに治療を行っても、病状を悪化させるだけであるのは明白だろう。本書は課題研究を通して、先人たちが歩みの中で築き上げてきた「ものの考え方」をより多くの人に理解してもらい、課題に対して取り組む基礎力を身につけることを目的としている。この本に出会った一人ひとりが人類の歩みにおいてかけがえのない一員となり、よりよい時代を切り拓いていく原動力となることを心より祈願する。

### 著者

おかもと なおや  
岡本 尚也(一般社団法人 Glocal Academy 代表理事, 物理学博士)

1984年、鹿児島県に生まれる。慶應義塾大学理工学部卒、同理工学研究科修了後、ケンブリッジ大学で物理学博士号を取得。さらに、オックスフォード大学にて日本学修士号を取得。ケンブリッジ大学在学中の研究成果をまとめた論文が Nature Materials など、世界のトップジャーナルに掲載される。帰国後、NPO 法人グローバルアカデミーを創業。現在は、後進の育成や、社会や学術における諸課題に取り組む個人および団体を支援する一般社団法人 Glocal Academy 代表理事。全国の SGH や SSH の課題研究指導・教育プログラム作成等の支援のほか、大学や企業の支援も行っている。東洋経済オンラインにて「英国流創造と学びの技法」を連載中。

